## ④ 様々な碑銘

もうお気付きだと思いますが、colombageの家々には様々な碑銘が彫られています。住居が建設された日付とそこに住む夫婦のイニシャルを彫るのが当時の習慣でした。
〝IHS〟(Jesus Hominum Salvator)はイエス・キリストを表す碑銘です。厄除け、家庭円満を願って彫られたと言われています。ぜひ、探してみて下さい。エギサイムの村は様々な発見があなたを待っている事でしょう。

## ⑤ 石に刻まれた文字

玄関扉の上に水平に渡された石に刻まれた紋章はとてもアルザス特有のものです。大半が、建設された年や家主のイニシャルが彫られています。また、紋章の中心に彫られたイラストのような記号からその家主の職種を知る事ができます。

## ⑥ 宮殿

ローマ時代、この土地の建物はほとんど木造でした。8世紀にはメロビング朝となり、この村はエギノという人の領地でした。そして現在、その創設者の名が基となり、この村はエギサイムという名が付いています。
10世紀に8角形の宮殿はこの中庭に建てられ、16世紀には宮殿の周りに設けられた堀は埋められました。そして19世紀には、かつて旧主塔があった城壁の中心に礼拝堂が建てられました。1002年6月21日この宮殿で後の教皇レオン9世(1049-1054)ブルノが生まれました。

## ⑦ 礼拝堂

この村の中でも特にこの礼拝堂は、1049年2月12日にローマで教皇レオン9世として即位したブルノの名残があります。 5年間の教皇職で、彼は旅人、外交官、調停者の権限を持っており、キリスト教徒の平和を追究する為ヨーロッパを歩き回りました。
また、エギサイムを復興する魅力的な改革者でもありました。特に、神父の結婚反対を主張していました。礼拝堂は多色装飾とコントラストが素晴らしく混ざり合っています。身廊はレオン9世の生きた証です。ぜひ、礼拝堂の中に入ってみて下さい。

## ⑧ エギサイムの乙女

13世紀に建てられた鐘楼の足元にある教会の入口は1807年に破壊されました。扉の内側には、珍しい14世紀の木製扉式マリア像が薄明かりの中にそっと立っています。また、入口の壁には賢明な乙女と無分別な乙女を表現した挿絵があります。キリストの視線の先には、無分別な乙女が神への導きを無視するように無造作にランプを下に向けて照らしています。一方、賢明な乙女は序列して確実に天国まで歩いていけるようランプを照らしています。

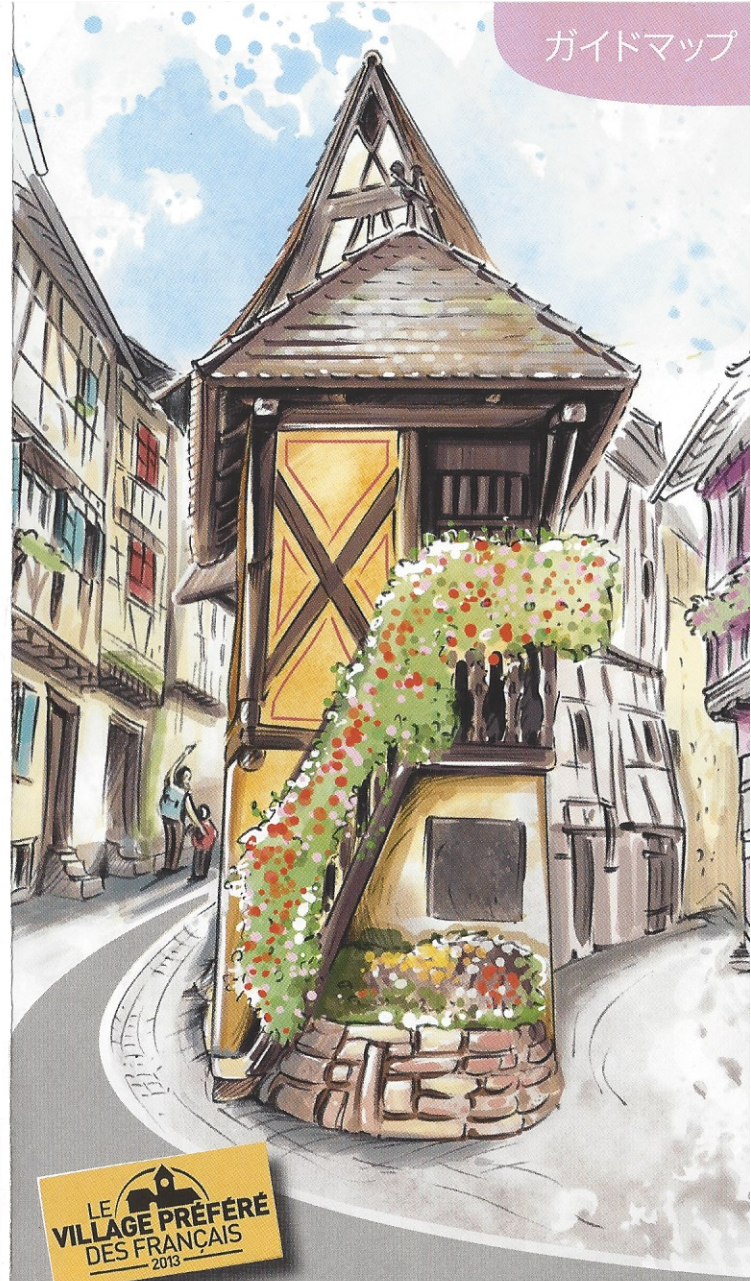
## ⑨ 中庭

貴族は中庭と農場を所有し、また大修道院は豊富な土地にブドウ畑を持っていました。そして、売買、計量、公定価格決定、精算経営等の場がここに設置されました。
エギサイムワインの品質と評判は中庭を商売の場として発展させました。また、略奪を防ぐ為に村の内側の城壁が補修されました。

観光案内所 :
+33 (0)3 89 23 40 33
info@ot-eguisheim.fr
www.ot-eguisheim.fr

illustrations : Caroline Koehly - O. C. K. productions





LE VILLAGE PRÉFÉRÉ DES FRANÇAIS 2013

ぜひ、同心円を描く村の
中へ入ってみましょう。

# アルザス